

日風園

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉 第103号 平成30年(2018)10月1日

資料見聞

餅まきを描いた絵馬

香南市夜須町出口宝田神社蔵

企画展「維新が変えた庶民の暮らし―絵馬や民具から読み解く高知の近代―」で展示予定の絵馬で、担当者の一人である私のお気に入りだが、この香南市夜須町出口宝田神社所蔵の1枚です。縦183・5cm、横184cmのほぼ正

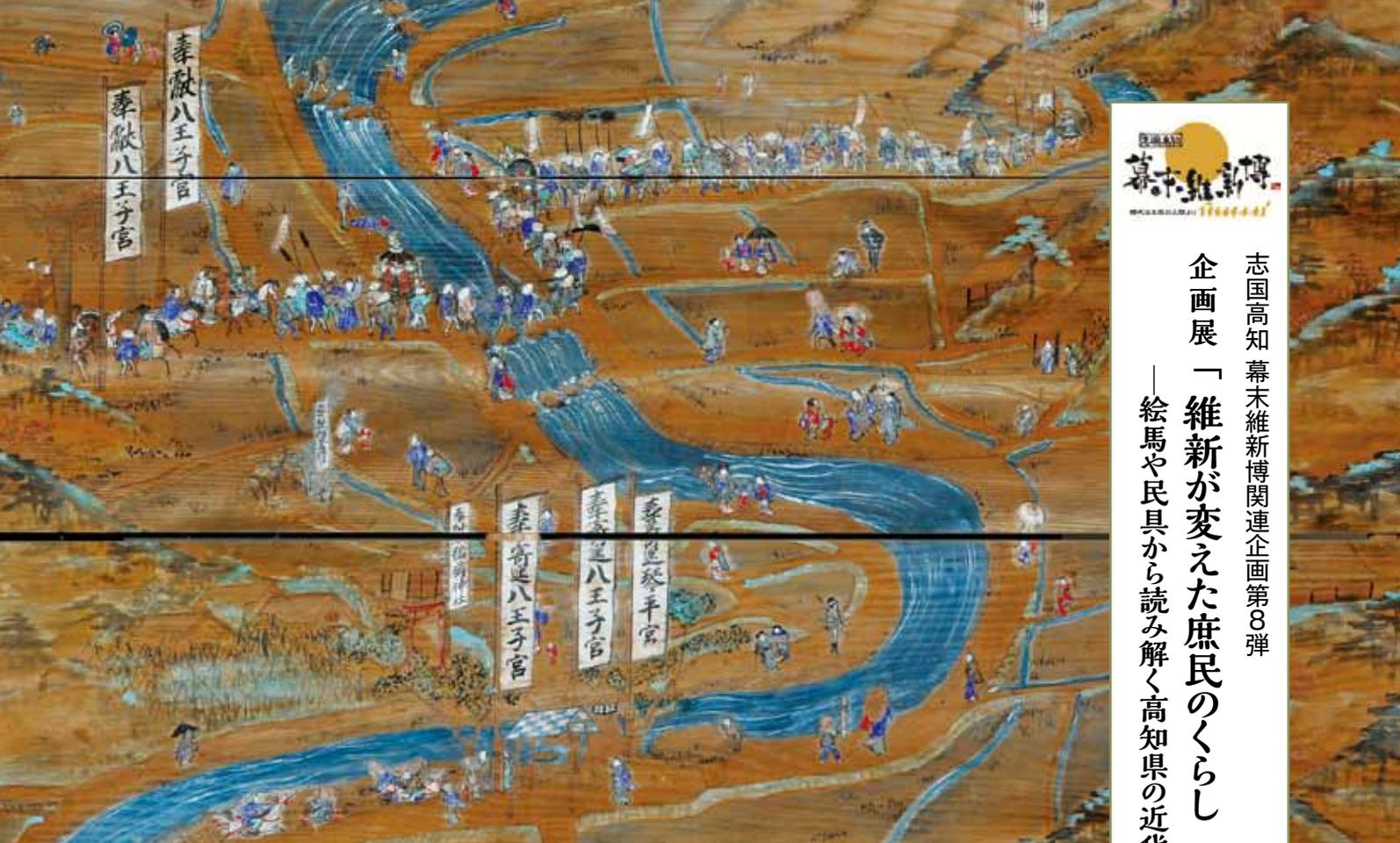
方形の大型絵馬です。立派な樹木の中に社殿が建ち、おびただしい数の人々がその前にぎっしり。その様子は頭をあらわす半丸を描くことで表現しています。手抜きのようなですが、人が大勢ひしめく様子は感じられます。なぜ、

人々は集まっているのでしょうか？よく見ると、屋根の上や境内の右手の赤い箱状の台の上に立った人がお餅や、餅の入った俵を放り投げています。これは高知県民の大好きな餅まき（餅投げ、餅ばわし、とも言います）ではありませんか？人混みをよく観察すると、手を伸ばして餅を取ろうとする人、俵の中の餅をにらみ合いながら取る人、俵を担いで逃げる人、それを奪おうとする人など実にさまざま。まな人が描かれています。投げられた餅をめぐる悲喜こもごもの真剣勝負が繰り広げられるのは今と変わらないようです。ただ、気になるのは俵ごと放り投げているらしい点です。打ち所が悪かったらどうするつもりだったのでしょうか？画面の左下に目を移すと太鼓を叩く人に乗せた車輪付きの屋形を引く人々の姿も見えます。県中央部ではほとんど見られない祭りの出し物で、貴重な記録です。



餅まきの絵馬（部分） 香南市夜須町出口 宝田神社蔵

絵馬の年号は、明治22年（1889）です。ユーモラスで生き生きとした餅投げの様子は、高知県で最も古い餅投げの絵では？（梅野光興）



志国高知幕末維新博覧会連企画第8弾

企画展 「維新が変えた庶民のくらし」 ——絵馬や民具から読み解く高知県の近代——

絵馬「神幸図」(部分)

香南市夜須町上夜須 八王子宮蔵

刈り取り後の田園風景を進む神輿行列。デフォルメされているとはいえ、明治初期の高知の農村風景を描いた珍しい絵馬である。明治14年(1881)

今年、明治維新150年目にちなみ、高知県でも昨年「幕末維新博」と題し、さまざまな催しを行ってまいりました。ただ、これらの催しは、幕末維新の歴史の出来事や活躍した人物にスポットを当てたものが大半で、明治維新によって人々の社会や生活がどのように変化したかに注目したものはあまり多くありません(高知城歴史博物館の「ぼくらの明治維新くらし」が見た新時代)があります。

しかしながら、学校、郵便、新聞、鉄道、工場、選挙など、現代日本をかたちづくるさまざまな制度や文化は、明治維新をきっかけに始まりました。そのような意味で、明治時代は現代日本、そして現代の高知県の出発点と言えるかも知れません。豊かな現代日本のルーツであるとともに、都市と地方や自然環境など現代社会の抱える問題点の多くもこの時代に始まりました。これからのどのような社会を作っていくべきかを考えるためにも、明治維新によって私たちの生活がどのように変化したかを知ることが意味のあることだと思えます。

今回の企画展は、高知県における生活や産業の近代化の一端を主に庶民の視点から考えるものです。展示資料と

しては、明治から昭和初期に描かれた絵馬、そして明治以降に導入・変化したと考えられる民具、当時の歴史資料を駆使し、立体的に構成します。

1 新しい国のすがた

最初は、明治国家の構想する新国家の制度である、地租改正や学校、郵便制度を紹介します。これらは、鉄道などと違って、高知県でもそれほど遅れずに始まったものと思われれます。

次に新しい国作りの過程で起こったさまざまな動きを簡単に紹介します。その代表は自由民権運動です。今では当たり前になった、選挙で選ばれた議員が政治を行うという方法ですが、その実現には長い産みの苦しみがありません。新しい国のかたちをめぐって、政府だけでなく民衆もさまざまな考えを主張した時代でした。

第三に、近代国家の柱の一つ、軍隊を取り上げます。新発見の福岡県大演習絵馬をメインに徴兵制を紹介し、日本の国としての一つの帰着点とも言えるべき日清・日露戦争を紹介します。

2 変わりゆく生活

西洋化に伴って現れた新しい文物や交通の変化を主に収蔵資料の民具から

紹介します。洋服、ランプ、炭火アイロン、手回しミシン、人力車などを展示します。

次に明治20年に刊行された『南陽高知商工名鑑』を取り上げます。同書には、高知や伊野の商家の店先が描かれており、商業や産業が活性化している様子がうかがえます。

そして飲酒習慣の変化を、貧乏徳利のコレクションや酒屋の絵馬、酒器などから紹介します。日清・日露戦争を契機に飲酒の機会が増えたとされています。貧乏徳利に記された酒屋の名前を分布地図に落とし、村ごとと言つてよいほど酒屋が増えてきた様子を展示します。

3 産業の近代化

日清・日露戦争を境に本県の産業も近代化が進んでいきます。このコーナーでは、全国的にも「富国強兵」を支えた養蚕・製糸業と、高知県独自の発展を遂げた打刃物を中心に紹介します。

まず、養蚕・製糸業は、収蔵資料の養蚕・製糸用具や製糸工場の写真を展示します。生糸は重要な輸出品になりましたが、それを支えたのは農山村の養蚕農家であり、各地の集積地に建設された工場では、近隣の女工たちが労働力となり働きました。マブシの改良



ハチノス掃除機 個人蔵
蚕が繭を作るハチノスから、繭をとりのぞいたあとに掃除する道具。県内の美良布（現香美市）で製作されている。



通い徳利 個人蔵
ガラス製の酒瓶が無い時代、庶民は酒屋の徳利で酒を買った。「美良布村 下野尻 南酒林」など酒屋の名が記されている。



絵馬「酒造家図」(部分)
明治32年3月吉日/立田西早 大甲虎治 南国市琴平神社蔵
左端に電柱、オーク・車力・馬による運搬、人力車など、明治時代の様々な風俗が描かれている。



土佐打刃物（エガマ）個人蔵
枝や小木を伐るナタの一種。



西畑人形の頭
和紙を丸めた上にオガクズを
固め、胡粉を塗って作られている。



絵馬「平田舟」 明治18年(1885) 南国市琴平神社蔵
かつては河川や海が物資運搬の主要なルートだった。



日清戦争絵馬 明治29年(1896) 南国市琴平神社蔵
日清戦争は明治27年(1894)に開戦、翌28年4月休戦。



手回しミシン ミシンの語源はマシン(機械)
で、明治維新以降入って来た文明の道具。木蓋
に明治35年とある。個人蔵

によるハチノスや、ハチノスを
掃除する道具の開発など県内で
も独特の動きがありました。

次に農具の近代化について、
紹介します。正条植(苗を等間
隔で植える方法)の奨励に伴う
田植定規や草取り機の普及、牛
鍬や唐箕の近代化、足踏み脱穀
機などの新しい道具を展示しま
す。

第三に、土佐打刃物の発展を
林業の発達とあわせて紹介しま
す。養蚕・製糸業が国の政策で
発展・普及したのに対し、打刃
物は林業の振興を背景にしなが
らも、その状況に個々の鍛冶屋
や問屋が適応し、独自の発展を
遂げました。

4. 祭りと娯楽

人々の精神文化の変化を紹介
します。神仏分離などの政策は、
高知県における庶民信仰に少な
からず影響を与えました。明治
時代の祭礼絵馬には、江戸期以
来の伝統と新しい風俗があわせ
て描かれているので、そこに注
目して紹介します。

また、庶民の娯楽にも大きな
変動がありました。西畑人形は、

高知市春野町西畑で明治初期に生まれ
た人形芝居で、人形浄瑠璃とも異なる
独特の方式をもち、明治から大正時代
にかけて四国や九州で人気を博しまし
た。しかしながら、やがて時代は、蓄
音機やラジオ、映画など複製された音
や映像を楽しむ時代が変わっていきま
した。本コーナーではその移り変わり
も紹介します。

5. 現代のなかの近代

明治維新に端を発した近代は、遠い
歴史の彼方でしょうか？

私たちの身近にはまだ近代の痕跡が
見え隠れしています。このコーナーで
は、須崎市桑田山の白石工業土佐工場
の写真を展示し、現在もすぐ近くにあ
る近代の痕跡と、次第にその風景が失
われ行く現在を紹介します。

(梅野)

■ 関連企画

第7回旧大栃高校民俗資料

一般公開

11月10日(土)・11日(日)

当館がこれまで収集した約2千
点の資料を大公開。明治・大正・
昭和の資料がいっぱいです。

企画展

「郷土玩具にみる明治のおもかげ」準備中

郷土玩具は土や木、紙といった身近な材料を使って手作りされ、伝えられてきました。その素材でかわいらしい姿は、見るひとの心をなごませます。

その多くは江戸時代から明治時代にかけて作られはじめ、日本各地の生活風俗を反映しています。

そんな郷土玩具のなから、今回は明治期のおもかげを残す人形や玩具をご紹介しますと準備を進めています。

展示の中心は、高知市の山崎茂さんから平成22年に寄贈された郷土玩具です。全体では約1万2千点で、昨年ようやくすべてを当館へ運び終えましたが、分類整理の方は、はじまったばかりです。



蒸気船 (島根県)

その作業と並行して、今回の企画展のために明治時代の乗り物や服装などをかたどった人形や玩具をピックアップしています。

当館ではこれまでも郷土玩具の企画展を開催してきましたが、「船のおもちゃ図鑑」や「おさるの楽園」などは、山崎さんの人形部屋で「船」や「干支」といったまとまったコーナーがあったので、展示資料の候補選びが比較的容易でした。

しかし、今回は高知県で絶賛開催中の博覧会「志国高知幕末維新博」に関連した企画展で、切り口が異なります。そのため、山崎さんの人形部屋にまとまったコーナーはなく、当館へ運んだのちも分散しており、展示資料を揃えるのに時間がかかっています。

矢舁にブーツといった和洋折衷姿の女学生が中湯川土人形に居たはず…などと当たりを付けて探していますが、以前の企画展のコーナー「郷土玩具で遊ぼう」用の購入玩具から、いかにも文明開化な馬車がひょっこり見つかりました。

明治期の生活風俗は、中湯川土人形など昭和期以降生まれの新しい土人形

や張り子のモチーフにもなっており、人気のほどがうかがえます。

そのほかに明治期に作られたはじめたという由来をもつ高知県の相合傘の張り子人形などを展示する予定です。

また、山崎さんの先輩にあたる郷土玩具収集家、城田政治さんのコレクションからもご紹介しようと考えています。

準備はまだまだこれからですが、3年ぶりの郷土玩具の企画展に、どうぞご期待ください。
(中村)



女学生 中湯川土人形 (福島県)

ただいま準備中！郷土玩具展ラインナップ

◆コーナー展「干支の玩具 亥」

12/14(金)～1/27(日)

◆企画展「郷土玩具にみる明治のおもかげ」

1/2(水)～3/24(日)

◆コーナー展「おひなさま」

2/2(土)～3/17(日)

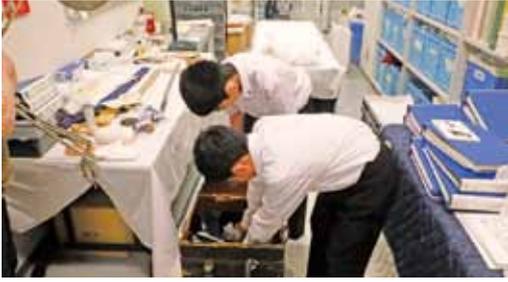


馬車 長門張り子 (山口県)

中学生の職場体験 博物館のしごとに挑戦

今年も4月以降、地元南国市の他、高知市内の中学生が当館で様々な体験活動を行いました。「博物館は何のためにあるのか」という素朴な疑問に答えるため、当館では、展示室やバックヤードなど可能な限りありのままを見てもらっています。また、なるべく多くの職員と関わってもらい、働くことの意味について多様なものの見方があることを知ってもらうため、学芸員だけでなく、学芸補助員、展示解説員、警備員などからもレクチャーを受けるようプログラムしています。

毎回多くの生徒から感想が寄せられますが、一番反響が大きいのが、刀剣など美術工芸資料に触れた経験です。資料の持つ造形美や、製作した昔の職人の知恵や技に対する感動は



よろいを的確に収納する一宮中の生徒たち

特に説明しなくても十分伝わっているようです。



「土佐日記」について解説する介良中の生徒

また、一方的に知識を詰め込むのではなく、生徒が自ら考え行動するしかけも用意しています。展示室のなかから好きな資料を選んでもらい、最終日に全員で展示解説をします。緊張感の漂うなか、毎回精一杯のパフォーマンスが繰り広げられます。なかには職員顔負けの熱血解説をする生徒もおり、こちらも色々と勉強になります。来期はどんな生徒たちがやってくるか今から楽しみです。

(野本)

れきみんの裏方見せます バックヤードツアー開催

今年の夏も様々なワークショップや特別企画で盛り上がったサマーミュージアム。なかでも地味に人気のあったのが、普段お見せすることができない、いわゆる博物館の裏方エリアの公開でした。

公開といっても自ずから限界があり、すべてという訳ではありませんでしたが、トラックヤードから荷解室、燻蒸庫・写場・工作室と、実際に資料が搬入され、その後どのような流れを経て収蔵庫や展示室に運ばれていくのかを分かりやすく解説しました。

また、各部屋ごとに学芸員を配置。実際に働いている姿を見ていただくことにより、リアルな博物館の日常を見学していただきました。

参加された方からは、「大変興味深くワクワクしました」といった感想の他、「なぜ、学芸員になろうと



岡豊城跡の瓦をじっくり観察!



製糸関連の民具(さねくりとざぐり)を動かす!

思いましたか?」「なぜ4分野に分かれているのですか?」などの鋭い質問も飛び交いました。

(野本)



大鉄砲の重さと長さを実感!

コーナー展

西郷どんがやってきた（故郷・鹿児島で揮毫した西郷の書）

明治4年（1871）に、新政府の要請により、上京の途にあつた西郷隆盛は二度目の高知訪問を果たします。

そののち、東京に到着した西郷は新政府の一員として、様々な改革を推進します。さらに、岩倉具視らが条約改正のために欧米に外遊すると新政府を任せ、陸軍省・海軍省を設置、学制の制定、徴兵令・地租改正条例の布告など、様々な政策を実行していきました。

しかし、明治6年に外遊から帰国した岩倉具視らと対立したため、新政府を去り、故郷・鹿児島に帰りました。そこで書したと思われるのが、本コーナー展で展示する西郷隆盛七言絶句「官途逃去遠捜奇」です。書の大意は、「役人の道を辞して遠く綺麗な景色を眺め、神秘的な山の状景に心動かし詩や書

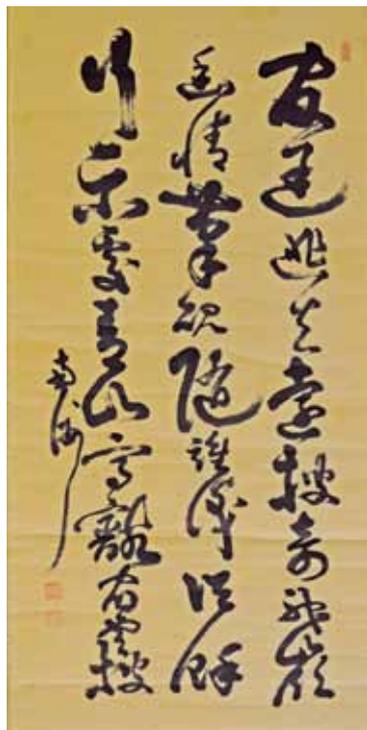
えていくのを見た。この美しさを誰がわかるであろうか。」となります。

鹿児島に帰った西郷は猟や温泉に出かけるなどして日々を過ごしたといわれています。この詩はそのような西郷の日常を詠んだものであり、大変貴重な資料といえます。

ところが、その平穏な日常は、明治10年（1877）1月に、自身が首領となつて起こした西南戦争によつてかき消されました。そして、9月24日に西郷は自害し、49歳の波乱に満ちた生涯の幕を閉じました。

本コーナー展では、この他にも西郷の書4点を展示するなど、本年度高知県内でもっとも西郷関係資料を見ることができると展示会のひとつです。ぜひ、足をお運びください。（石畑）

を楽しむ
ことがで
きる。温
泉につか
り行楽へ
出たところ
高い山
に雲が消



西郷隆盛七言絶句「官途逃去遠捜奇」
（三谷高子氏蔵）

締切り迫る！

岡豊山フォトコンテスト オリジナルカレンダー、 つくりまします！

第13回岡豊山フォトコンテストの締切が10月14日（日）と迫っています。

テーマは「岡豊山の春夏秋冬」。いろいろな季節の写真を集めて、来年のカレンダーをつくりまします。「何年か前に撮ったものだけど〜」大丈夫です。なつかしい昭和なものも、もうすぐ終わる平成のものでも、撮影時期は問いません。

舞台となる、ここ岡豊山は時の流れが見える場所。古墳ができた時代、人はどんな景色をみていたのか。城があった時代、どんな夢をみていたのか。防空壕をつくった時代、どう生きたのか。時代のおもかげを残す岡豊山の、魅力あふれる写真のご応募をお待ちしています。（総務事業課）

ケータイ・スマホ部門なら、さらに応募も簡単です！
詳しくは、チラシ・HPでご確認ください。



平成29年9月撮影。幻想的な岡豊山

岡豊城跡 国指定史跡10周年

櫓でミニ展示 開催中

岡豊城跡が国指定史跡（史跡のうち文部科学大臣が指定する重要なもの）となったのが、平成20年7月28日。10周年記念のプレ企画として、岡豊城跡・詰にある櫓にてミニ展示をしています。当時の官報や、公園としての整備や史跡調査の流れなどを紹介。番外編として岡豊山古墳についても少しふれています。8月31日までの夏休み限定だったものを延長展示していますので、ぜひご覧ください。

ほかにも10周年企画をいくつか準備中。随時、ご案内しますので、当館HPのチェックをお願いします。（総務事業課）



秋の櫓は、もう最後。見納めまで半年を切った櫓で、金風を感じてみませんか？

志国高知 幕末維新博関連企画 第8弾

企画展

維新が変えた庶民の暮らし

—当絵馬や民具から読み解く高知の近代—

10月6日(土)～12月9日(日) 会期中無休

絵馬や民具から明治維新以降の高知県の生活や仕事の変化をたどります。



蓄音機(竹村守博氏蔵)

●講演会「土佐の民具に見る時代と社会—農具と山林用具を中心に—」

元神奈川大学教授 香月洋一郎氏
12月2日(日) 14:00～16:00

●公演「西畑人形芝居」

<岩見重太郎大蛇退治>前後編
西畑人形芝居保存会

10月7日(日) 14:00～16:00

●史跡めぐり「土佐打刃物の里を訪ねて」(仮)

11月23日(金・祝)

●講座「福岡県大演習絵馬を読み解く」

当館学芸員 石畑匡基
10月28日(日) 14:00～15:30

●講座「絵馬に見る明治維新後の庶民文化」

当館学芸員 梅野光興
11月4日(日) 14:00～15:30

●ワクワクワーク

「近現代の史料にふれてみよう1・2」

当館学芸員 石畑匡基
①10月27日(土)・②11月24日(土) 14:00～15:30

●ミュージアムトーク

①10月6日(土)、②10月20日(土)、
③12月1日(土) 14:00～15:00

講演会・講座=先着130名、要事前予約、要観覧券
ワクワクワーク=先着20名、要事前予約、要観覧券
ミュージアムトーク=予約不要、要観覧券
西畑人形公演=予約不要、要観覧券
史跡めぐり=申込み要、参加費要

岡豊風日(おこうふうじつ) 第103号
平成30年10月1日
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 高知市岡豊町八幡1099-1
TEL 088(862)2211
FAX 088(862)2110
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり
観覧料 (通常展)大人(18才以上) 460円
(団体20名以上) 360円
(企画展)通常展 510円
(団体20名以上) 410円
無料:高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)

印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

コーナー展

せご 西郷どんがやってきた

9月17日(月祝)～12月16日(日)

明治初期、西郷隆盛が来高し、木屋(竹村家)に宿泊しました。竹村家に残る西郷関連資料を中心に紹介。今年の主役西郷どんと高知のつながりを紐解きます。



西郷隆盛が履いた下駄 竹村守博氏蔵

コーナー展

「国史跡・岡豊城跡」

10月1日(月)～平成31年3月31日(日)

岡豊城跡が国史跡に指定されて10周年をむかえることから、岡豊城跡で出土した瓦などを展示します。

予告その1

志国高知 幕末維新博関連企画 第9弾

企画展

郷土玩具にみる 明治のおもかげ

平成31年1月2日(水)～3月24日(日)

宇土張り子の蒸気船(熊本県)など明治時代の乗り物をかたどった郷土玩具、相合傘の張り子人形(高知県)など明治生まれの諸玩具を展示します。



相合傘の張り子人形(高知県)

予告その2

コーナー展

えと 干支の玩具 亥

平成30年12月14日(金)～平成31年1月27日(日)

干支にちなんだ猪の郷土玩具が勢ぞろい! 猪突猛進の疾走感やうり坊の可愛らしさなど猪玩具のいろいろな表情をお楽しみください。



出雲張り子(島根県)